

## 平成25年度第9回地方独立行政法人京都市立病院機構理事会の概要

- 日 時： 平成26年2月25日（火） 10時30分～正午
- 場 所： 京都市立病院 5階会議室
- 出席者： 理事長 内藤 和世  
理 事 森本 泰介, 桑原 安江, 大森 憲,  
位高 光司, 山本 壯太, 能見 伸八郎, 木村 晴恵  
監 事 長谷川 佐喜男, 中島 俊則

### 1 開会

### 2 議事

#### (1) 地方独立行政法人京都市立病院機構病院等管理規程の改正について

- 本件改正は診療報酬改定も踏まえたものであると考えるが、診療報酬改定が法人に及ぼす影響についてどう考えているか。
  - ・ 診療報酬改定では消費税率の引き上げに対応すると同時に、急性期や回復期など病院の機能分化を促進することで地域医療の強化を図る傾向が見受けられ、管理規程の改正についても、一定それに対応したものと言える。  
また、診療報酬改定で在宅医療充実の方向性が明確に打ち出されたため、地域包括ケアを目指す京北病院としては追い風である。
- 市立病院では急性期からの転換や病床数の減少について予定しているのか。
  - ・ 予定していない。中期計画で掲げる病床利用率91.1%を達成できれば、病院運営上、病床数を減少させる必要はないと考える。  
来年度以降、京都府において地域医療ビジョンの策定作業を進めるに当たり、病院の機能種別の届出制が導入されるが、市立病院については急性期病院としての届出を、京北病院については地域医療を提供する病院としての届出を行う予定である。
- 選定療養費は、患者によって自己負担額が変動するのか。また、対象となる患者の初診患者に占める割合は。
  - ・ 患者によって選定療養費の金額は変動しない。また、対象となる患者は初診患者の3割程度である。
- 選定療養費について、病院間で金額が大きく異なるがなぜか。
  - ・ 選定療養費については、各病院で自由に設定できるためである。
- 市立病院において、地域のかかりつけ医からの紹介を経て受診する場合と、直接市立病院を初診で受診する場合では、経費が高くなるのはどちらか。
  - ・ 現在は、かかりつけ医からの紹介を経た受診が、初診で市立病院を直接受診するより高い状況にある。これはかかりつけ医との機能分担を図ることで地域医療連携を促進する国の方向性とも相容れないため、今回の改正により是正を図るものである。
- 受付窓口で患者と紛争にならないように、対象となる患者への説明は十分に行う必要があるが、地域医療という観点から、患者間の初診料の不公平を解消するための施策であり、また他病院との比較においても高額となるわけではないので、患者からも納得を得られるのではないか。
  - ・ 市立病院と同規模の急性期病院の平均値は5千円程度になると思われる。

## (2) 平成25年度地方独立行政法人京都市立病院機構補正予算について

- 給与費の増額とあるが、職員が増加したのか。
  - ・ 医師等を15名弱増加した。
- 材料費増加の原因は。
  - ・ 手術数の増加等により医業収益が増加しているため、それに伴い材料費も必然的に増加することになる。

また、薬品比率等も増えているが、増加した要素を見ると、抗がん剤や抗生物質など高価な薬品の使用頻度が上がっており、医療の内容がより高度化したために薬品費が増加したと分析できる。

なお、高度先進医療については、材料費等が高くなることは事実であるが、診療単価の上昇などの面において大きな成果を生み、収益も大幅に増加している。
- 電気料金の増加原因は。
  - 現在は供用を終了している北館を含め、今年度は3館を同時使用していたことに加えて、夏季及び冬季における季候的な影響が大きい。
- 今回の補正を行うことで、決算にはどのような影響を及ぼすのか。
  - ・ 今年度は、収益が予想以上に伸びたが、一方で支出についても当初の予想を上回った。

なお、決算見込みの上では、年度内に必要となる最大額を予測しており、今回の補正はその範囲内である。

## 3 報告

### (1) 京都市立病院整備運営事業における整備計画の変更について

- 院内保育所の現在の稼働率は。
  - ・ 現在は、定員を上回る稼働率で運用している。市立病院では院内保育所を利用できる対象職種を看護師に限定しておらず全職種まで拡大しているため、今後、需要の増加が予想される。可能な限り需要に応えるため、保育所の定員を拡充することとした。
- 職員用駐車場は職員なら誰でも利用できるのか。
  - ・ 地理的条件等を設けたうえで、利用料も徴収している。
- 病児保育の対象となるのは市立病院の職員のみか。
  - ・ 国や市においても病児保育を行う施設の整備を進めているところであり、それらの動向も見極めつつ、関係機関と連携を図りながら前向きに検討を行っていきたい。
- 院内保育制度が整っていれば、母親としても安心して働くことができ、職員の離職対策としても効果的であると思われるが、一方、学童期の子を持つ母親が、24時間職場である病院を子育て上の理由で退職せざるを得ない事例についてよく聞く。市立病院で学童期の子を持つ職員の離職対策は検討しているか。
  - ・ まずは、国において進められている男女共同参画の視点に立った議論が必要な分野である。
- 現在、職員宿舎を民間事業者から借り上げているとのことだが、事業者の選定はどのように行ったのか。
  - ・ 通勤の利便性を考慮して、半径2km以内の物件という条件のもとで複数の事業者に呼びかけ、最も条件の良い提案を行った事業者と契約した。

また、職場と住居が同一敷地であれば休日の安息を得にくい等の理由からか、敷地内の宿舎よりも敷地外に居住することを望む傾向があり、価値観の多様化に柔軟に対応するためにも近隣の民間施設を借り上げることとした。

## (2) 経営状況月次（1月分）及び第3四半期報告について

- 訪問診療については、需要に基づいた妥当な目標数値であるのか。
  - ・ 訪問診療の標準形は月2回の訪問であり、現状では月2回の頻度では訪問できていないことを鑑みれば、決して過大な目標設定は行っていないと考える。また、訪問診療のみならず、訪問看護についても、需要に供給が追いついていない面が見受けられる。  
現状においても、地域の需要に対して最低限応えているとは思いますが、十分であるとは考えていない。京北地域の高齢者で京北地域外の病院を受診している割合が低いことを踏まえて、京北病院では、今後、在宅医療機能を強化して、地域住民からこれまで以上に必要とされる病院づくりに取り組む必要がある。
- 京北地域の団塊の世代が市内中心部まで出ることができなくなったときに、京北病院を利用したいと思わせるような魅力的な病院づくりが必要である。訪問診療を含めて地域包括ケアシステムを早急に構築し、京北病院の魅力を住民に対して積極的に広報していかなければならない。
  - ・ 住民にとって京北病院が魅力的であれば、市内の病院まで出向く必要はないはずである。需要は十分にあるため、地域包括ケアの視点を大事にして、京北地域の住民の健康を支えることのできる医療・介護サービスの提供に引き続き努力する。
- 市立病院においては1月も好調であったが、インフルエンザの影響はあるのか。
  - ・ ほぼ影響はない。内科系疾患の患者は季節柄1月に増加するものであるが、インフルエンザの患者は今年度についてはそれほど多くない。

## (3) 平成26年度京都市立病院機構予算案骨子について

- 京北病院の予算数値の設定根拠は。
  - ・ 来年度は中期計画の最終年度に位置づけられるため、必然的に中期計画で掲げる目標数値を設定しなければならない面がある。なお、現段階においては、十分に目標を達成できると分析している。
- 京北病院の給与費が減少している理由は。
  - ・ 職員の退職に伴い、職員の年齢構成が変化するためである。
- 収益についてはさらに増加すると見込んでいるのか。
  - ・ 人員体制を強化することで、今年度と比較しても更なる増収が見込めると考えている。
- 債務残高に対する支払金利はどうか。
  - ・ 利率が高いものについては優先的に返済を行ってきたため、借入の時期によるが概ね1～2%程度と、平均利率は低く抑えることができている。

## 4 閉会